通巻 123 号豊科郷土博物館
友の会報
令和３年１２月１０日発行

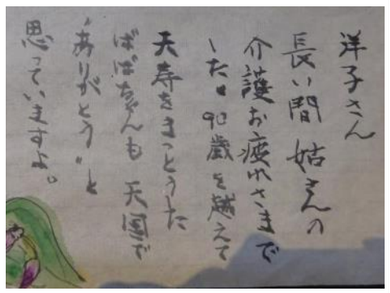
## 「今こそ　支え合い伝え合うことが必要」

友の会会長　百瀬　新治

少しゆっくりと『あづみの絵手紙展』を見させていただき、数多くの心温まる作品を拝見しました。手紙ですから、個人がお互いに交す通信文が基本なのでしょうが、展示されている作品中には、それに加えて自分の気持ちや表現したいことを広く多くの人に伝えようと意図したものもあります。

昨今のコロナ禍で、直接顔を合わせ言葉で伝えることができ難くなっています。絵手紙を味わい深い文面などを読み進めていくと、もちろん当事者間の心の通い合いは強く感じますが、私たちの方にもしっかり伝わってくるものがあります。それは、私たち第三者にも前向きに生活するよう気持ちを奮い立たせるエネルギーを注入される感じで、言わばエール（応援歌）のような作品の呼びかけに元気をいただきました。

今後の見通しが不明確で安心できない世情だからこそ、危機を迎えた先人たちが支え合うことで生き抜いてきた歴史に学ぶべきだと思います。共に励まし合い知恵を出し合っていく伝え合いも今こそ必要でしょう。小さな絵手紙から発せられる豊かで確かな発信をしかと受け止めました。




## 「このごろ、知りたいこと、調べたいと、思うこと」

博物館長　原　明芳

秋に一面に広がる黄金色の稲穂の波が、安曇野を代表する風景である。その中を流れる拾ケ堰は、江戸時代後期の文化１３年（１８１６）に開削された。標高５７０ｍの等高線をトレースする延長１５ｋｍの幹線水路である。現在は１０,０００ヘクタールの水田を潤している。安曇野の今日を築いた、江戸時代と現在をつなぐ文化遺産とされている。

このごろ疑問に思うようになってきた。これだけで近代安曇野を語っていいのだろうか。

明治４４年（１９１１）刊行の『南安曇案内』という南安曇郡を紹介する小冊子が刊行された。その最後に、「南安の蚕種業」というタイトルでページ割かれ、「秋蚕に於てはつひに南安曇の右に出づるもの無らんとす。前途のますます有望なること勿論也」と、全国的に秋蚕の飼育が盛んになったが、南安曇の秋蚕の生産が著しい増加を自慢をしている。最後に郡内の蚕種製造家６０６名の名簿が載せられており、この冊子のスポンサーも「蚕種四天王」と呼ばれた蚕種製造業者の一人、飯沼甚造（本光館）であった。明治のおわりから大正にかけて秋蚕の飼育、それに伴った秋蚕種の生産が活発になっていたのである。

『長野県統計書』では、価格で比較可能な大正１２年（１９２３）をみると次のようになる。南安曇郡の米の生産高は価格にすると２９２万２３８７円。それに対して春蚕が７６万１４９０円、夏秋蚕が２３５万２３８２円、あわせて３１１万３８７２円になり、米の産額をオーバーする。そこに蚕種の生産額５６万９２１８円を加えると、いかに蚕糸業が明治から昭和初期までの南安曇の経済に占める位置が高かったがわかる。

蚕種製造には、蚕にカイコウジムシが入り込まないようにその影響が少ない乾いた桑が必要であった。烏川扇状地はその生産に最適で、採れた桑は南安曇郡ばかりでなく、本郷村の蚕種家までが争って購入した。蚕糸業は、養桑業のほか、桑苗販売、蚕網、蚕籠、莚などの生産など、裾野が広い産業であった。

「豊科の宝」に蚕種製造業のことを調べていたら、「蚕種四天王」の一人、南穂高村の扶桑館館主の斉藤兵次郎と出会った。大正３年の蚕種生産番付で西の大関、全国４位の生産高があった。大き蚕室など建物を持っており、多くの人が働いていた。ところがその扶桑館の場所がどこなのか突き止めることができていない。蚕種業はわからないことだらけである。

# 友の会活動

## 「植物調査部　活動の記録」

博物館学芸員　松田貴子

植物調査部では毎年フィールドを決めて、５～10 月のグリーンシーズンの間、およそ月１回の頻度で通います。今年は２箇所のフィールド、穂高の三川合流部および明科の岩州公園としました。そのエリアの植物すべてを採集し、標本にすることが目的です。なるべく花や種をつけたよいタイミングで採集することを心がけます。毎月通うことで、植物の変化を観察できますし、植物だけではないさまざまな自然環境の発見があります。会員からは「景色のよさを楽しみながら、心身のリフレッシュになる。」「身近な自然でも、とても多様であることを知ることができた。」「県外からきて、長野県ならではの植物の発見が興味深く楽しんでいる。」「植物に関心がある仲間なので、発見やおもしろさを共感できることがうれしい。」といった感想が聞かれました。来年の春までは博物館学習室で、標本を台紙に貼り付けたり標本のデータ入力を進めたりしています。博物館の資料として整理し、長野県の植生の解明に寄与できるようがんばっていきたいと思います。

## 「進め！　郷土史部っ!!　玄向寺篇」

部長　古川幸男

11 月の見学会は、松本の玄向寺さんへいってきました。「安曇野市じゃないじゃん」「ぼたんの季節でもないし」と思われたあなた。そのとおり。だけど安曇野と深～い関わりがあるんです。なんと仁王門と中の仁王像２体は穂高神社からの移築です。そして、何といってもここは松本藩主だった水野家のお墓があります。有名な加助騒動の時は、水野氏の時代。加助は殺されました。その後、いろいろあって沼津へ移った水野家。老中になった水野忠成が京都への上洛途中に松本へ立ち寄り、玄向寺へ墓参。忠成は、先日の「満願寺展Ⅱ」でも展示された大きな絵や満願寺の寺号額も書きました。当日は天気も良くお寺から西に見える乗鞍がキレイだったこと。安曇野の平地からは見えないんだよね～。

・・・まさに
　　西方浄土でした。

# 友の会展覧会②

11 月 13 日（土）～11 月 28 日（日）

## 第 18 回絵手紙展

心温まる絵手紙の作品と篠田桃紅が遺した言葉の書、全国の会員との交流絵手紙、干支置物等が展示されました。毎年、新しい発想や画材を駆使した作品は、来館者の方にも好評です。部長の高橋久子さんのお話では、「絵手紙を描くことで、野の草花に心がひかれ、細かな所にも気が付くようになりました。今年は、博物館に展示してある民具をお借りし、絵手紙を描いてみましたが、昔の懐かしい思い出がよみがえってきます。また、病気の方から絵手紙は力を与えてくれる、元気づけられるととても喜んでくださいます。」とのこと。

絵手紙の持つ魅力や素晴らしさを感じます。

## 第 5 回戦時生活展

豊科高等女学校（現在の豊科高校）の戦時中の校友会誌や平成の豊科高校生徒の取り組みから、戦時中の女学生の生活感覚や意識について展示しました。また、満願寺へ集団疎開した世田谷区太子堂小学校の子どもたちの生活実態と当時の安曇 野の様子に関わる展示とそのＤＶＤ版「太子堂物語」鑑賞会を行いました。来館者からは、「当時の事がわかりやすく展示されていました。若い子たちが自分たちで調べる、話を聞くのはとてもいい経験だと思いました。」「子どもたちが両親と離れて知らない土地での生活のご苦労に胸にしみました。でも皆笑顔、強さと優しさがあふれていました。」等の声が寄せられました。今回も多くの方が、戦争について再度考える大変貴重な機会となりました。

## 今後の友の会展覧会予定

**令和４月１月 15 日（土）～１月 30 日（日）**

### 第 67 回新春書芸展

新春を祝う作品が展示されます。

千野秀濤先生のギャラリートーク

1 月 20 日（木）午後 1 時 30 分から

### 第 3 回着物リメイク展

タンスに眠る「きもの」を蘇らせた服などが展示されます。

# 令和3年度　博物館講座・展覧会スケジュール（予定）

### こたつ講座予定

| | 日時 | 時間 | 演題 | 講師 | 場所 | 申し込み |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 11 月 27 日（土） | 13:30 ~15:00 | 描かれた日本アルプス ～明治 30 年、丸山晩霞を中心に～ | 林　誠 | 博物館学習室 | 終了 |
| 2 | 12 月 4 日（土） | 10:30 ~11:30 | 機を織るということ ～衣生活を考える～ | 宮本尚子 | | 終了 |
| 3 | 1 月 15 日（土） | | 源平の戦いと安曇野 | 原　明芳 | | それぞれ 10 日前の 9:00～ 博物館へ TEL 0263-72-5672 |
| 4 | 1 月 29 日（土） | | ふしぎなななふし～安曇野に突然やって来た不思議な昆虫の謎～ | 幅　拓哉 | | |
| 5 | 2 月　5 日（土） | | 天の糸～自然との共生～ | 倉石あつ子 | | |
| 6 | 2 月 19 日（土） | | 絵本に描かれた植物の世界 ～おはなしと絵本の魅力～ | 松田貴子 | | |
| 7 | 3 月　5 日（土） | | 江戸時代後期の満願寺を めぐる僧侶たち | 逸見大悟 | | |

**令和3年度春季企画展　　八面大王と田村麻呂　～　～**

**会期：　令和4年3月 19 日（土）～5月 22 日（日）**

**関連イベント（予定）**

**◆ギャラリートーク　　3月20日（日）　　・午前10時～11時　　・午後2時～3時**

**◆講座や現地見学会は、4 月以降に実施する予定です。**

【盛泉寺に伝わる「八面大王の石剣」】

＊詳細は、２月 16 日発行の広報または企画展チラシにてご確認ください。